

取組実践校:佐伯市立鶴岡小学校(児童数536名 21学級)
「指導教諭を活用した組織的な授業改善とOJTの推進」

○指導教諭が各教員の授業場面の良さを伝える仕組みを構築し、組織的な授業改善につなげる。

【指導教諭の動き】

- ・週1～3回または授業研の直後などに全職員の授業を観察し、1回ずつある程度テーマ(「板書の構造化」「ノート指導」「教材・教具」など)を決めて好事例をまとめる。
- ・ロイロノートと電子掲示板(OneNote)で全教員に共有する。

全職員の授業を観察

好事例をロイロで共有・研修で紹介

好事例を授業で活用
日常的な授業談義
充実感・目標意識の向上

職員集団の融和性向上・OJT向上
授業力の向上

【好事例として紹介したもの】

11月27日(水)

丁寧な板書、構造的な板書、学習の流れが一見してわかる板書とは、どうやって組み立てていくのか?

それは、授業の前に、しっかり「つけたい力を把握」し、「手立てをいくつか準備」して、ある程度、授業の流れの構想を持つことが大切です。まず、1時間目に3、4年を巡回して、まさに準備の大切さを実感しました。

理科専科のS先生の授業レベルの向上には、とても驚かされますが、事前の授業構想がしっかりできていることが大きな要因だと思います。

これは、許可をもらって撮影しましたが、**授業プランも丁寧に**書かれています。

ですから、板書も美しくなる。そうすると、子どもたちもノートを書くようになる。好循環です。「ていねいにノートを書こうね」という教師の言葉も子どもに響きます。

【指導教諭が心掛けていること】

- ・必ずどの教員にも良い点があるので、それを見つけて共有していくこと。
- ・良い点だけでなく、課題(自分も含めた)をピックアップし、授業改善のポイントを示すこと。

【教員の様子】

- ・授業での先生方の笑顔が増えた。
- ・若手教員が気軽に授業の悩みを相談している。
- ・先生方の余裕が児童の落ち着きにつながる。

【ポイント】教員の日々の授業づくりの悩みに沿った好事例を提示することで、授業づくりについて日常的に気軽に相談できる環境が整い、経験の浅い教職員の育成にもつながっている。



【ロイノートで共有された内容(一部)】

11月27日(水)

丁寧な板書、構造的な板書、学習の流れが一見してわかる板書とは、どうやって組み立てていくのか？

それは、授業の前に、しっかり「**つけたい力を把握**」し、「**手立てをいくつか準備**」して、**ある程度、授業の流れの構想**を持つことが大切です。

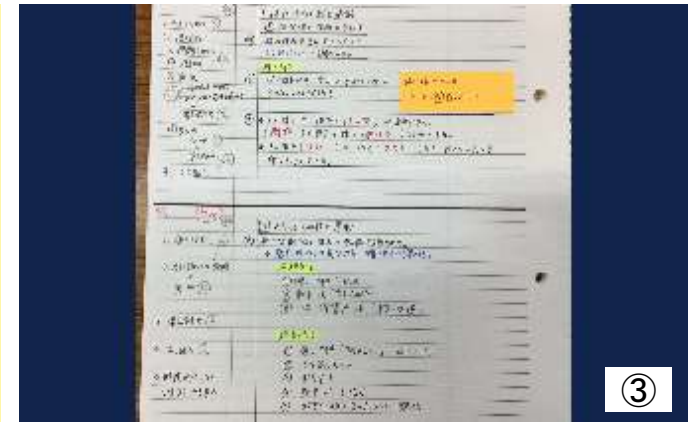
まず、1時間目に3、4年を巡回して、まさに準備の大切さを実感しました。

①

理科専科のS先生の授業レベルの向上には、とても驚かされますが、事前の授業構想がしっかりできていることが大きな要因だと思います。

これは、許可をもらって撮影しましたが、**授業プランも丁寧に**書かれています。

②



③



④

ですから、板書も美しくなる。
そうすると、子どもたちも丁寧にノートを書くようになる。好循環です。「ていねいにノートを書こうね」という教師の言葉も子どもに響きます。

⑤



⑥

4年のS先生の算数、3年のN先生とK先生の国語、みんな丁寧に板書しようと努めているのが伺えます。

「この板書どうでしょう？」的な会話の**声が職員室で聞かれる**ようになると、さらに授業力が向上するだろうなあと夢んでいます。

⑦



⑧



⑨